

## 会 議 録

会議の名称	令和4年度第5回天草市総合政策審議会
開催日時	令和4年8月26日(金) 9:30~17:00
開催場所	天草市役所2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、小川委員、小田委員、木村委員、澤田委員、山下委員
会議次第	1 開 会 2 諮 問 3 市長あいさつ 4 会長あいさつ 5 報 告 (1) 令和4年度第3回天草市総合政策審議会会議録について (2) 令和4年度第4回天草市総合政策審議会会議録について 6 議 題 (1) 第2次天草市行政経営改革大綱の策定について (2) 第3次天草市総合計画の策定について 7 その他 8 閉 会
審 議 内 容	
<p>(1) 第2次天草市行政経営改革大綱の策定について</p> <p>○事務局説明</p> <p>(会長) 本日諮問をいただきましたので、説明を受けながら、審議をして2月までにまとめていこうというスケジュールでということです。まだ今日は全体図、そしてこういう方向だということを説明いただきました。このことを理解した上で、お話し出来ればと思っています。具体的につめていくのはまだまだ先なタイミングもありますけれども何かご意見等いただければと思います。</p> <p>(副会長) 総合計画とこの行政経営改革大綱の関係性で、今まで総合計画について議論をしてきて、総合計画には目標があって、今、第3次の天草総合計画をまとめられてきていると思います。3次では、具体的な天草をこうしたいというのを描いていて、それに対して、5つの理念とありたい姿っていうのを組みました。この5つはともにつながり 幸せ実感、宝の島天草を目指すもので、この総合計画は、こうやって委員の皆さんにも入ってもらっていますし、市民と行政一緒になって作っていきっていくものだと思います。とはいえ、総合計画の内容自体は、ほとんどは行政の方がされるものなので、それぞれの疑問点で作っていったわけですよ。4プラス1みたいな考え方で、続けられてきたわけです。なぜならば先の4つは、私たちにも見えるというのは、市民にも見える側に対して、この5つ目だけは、要するに、行政の皆さんが自分たちでやらないといけない部分で、別途、内規というか、そういった位置付けとして行政経営改革大綱が必要という理解でいいですか。</p>	

(事務局) はい。

(副会長) 要は、行政の皆さんが自分たちで守るルールを作っていこうということだと思います。私たちが言うことないと正直思ったのですが、3本の柱があって、この3つは素晴らしいなと思いました。私の質問としては、ここに、その公民連携みたいな外との連携っていうのはうたわなくてもいいのか伺いたいです。なぜその質問しているのかというと、前から総合計画の中に、市民の役割を書き込めないかと考えていて、そうでない場合は、市民憲章みたいなものを多分作らないといけない、作った方がいいと思っています。結局、連携ということが一番大事な肝になってくると思っています。これからの総合計画や行政経営改革大綱は変えていかないといけないと思います。公民連携の意識が、この3つの中には伺えないと思っています、もしかしたらあらゆる社会に対応した行政運営の中に、民間とのやりとりという部分で示しているのかもしれないですけど、目に見えた連携というのは書いてないので質問しました。

(事務局) このことは、非常に重要であると思います。効率的かつ効果的な行政運営の中の行政運営への市民参画の推進のところの記載内容で考えております。今後、具体的な記載についても検討したいと思います。

(副会長) ありがとうございます。私の質問がちゃんと中身を読んでないところがばれてしまったと思ったのですが、しかし、そういう風に読まれてしまう可能性があるのも、その一丁目一番地をきちんと書いていただいた方がいいと思います。市民と一緒にという言葉があった方がすごく生きてくると思います。

(委員) 私もすごく考え方として重要と思っていました。市民は気軽に行政運営に提案できるというのは、仕切りをとにかく低くして、そして一体化するということが大変重要と思いますが、ただ、人口の減や社会的な環境の厳しさなどそれを考えた時にここでこそ市民が考えたもの、市民自体もやるべき、動くべきということに記載することで、メッセージの質が変わると思いました。市民もより自分たちで動くということを重視するということです。市民が責任感を持って考えた上で動いてもらえるなら社会が本当の変わっていくと思います。これが経営だと思います。役員がやると言っても社員も動かないと経営ということでは成果が出にくいと思っています。

(会長) 総合計画を議論しながら行政経営を考えると、どうしても行政組織の在り方をどうしようかやできるだけ無駄がないように、削減しようという話になってしまいます。しかし、地域づくりのための行政をどう考えるかがだと思います。地域づくりのための天草市の仕組み、在り方を考えようということだと思います。総合計画の構造としても、基本構想というのは、目指したい、ありたい2030年の天草の姿が書かれていて、これは行政だけでは出来ないことも書いてあるわけです。市役所の活動をどんどんと協力的にやっっていこうということが地域の役割だと思います。基本計画は行政としてやるのが書かれています。その基本計画がさらに具体化するものとして行政経営改革大綱があります。行政としてやることはあるのですが、色んなこう地域、地域で挑戦することも徐々に作っていった方がいいというのが全国で考えられていることです。なので、総合計画と行政経営改革大綱の両方あるというのが、天草の総合計画の話になってきます。しかし、

副会長と委員がおっしゃたような感覚で未来を見据えていくと、公民連携で活かされますし、地域の皆さん、例えば、個人個人で何かマイワーカー的な方もいらっしゃると思いますし、色んな主体的な方がたくさんいらっしゃるわけです。そうした方々が行動するところもないといい地域にならないということ前提です。その観点をどこかで捉えていかなくてははいけません。それがもちろん総合計画全体としてやらないといけないことでもありますが、今日の後半での基本構想の中の考え方としてしっかりと出していくことだと思います。それがイコール行政経営のあり方というところをある程度考えていく必要があります。行政がどういうことを意図して動くかによって、市民の活動もどんどん変わりやすくなっていく、影響していきます。まずは、オーソドックスに出来ていますが、きちんとその言葉を一個一個丁寧に出不さないといけないと思っています。あと、私が以前話した通り、市の職員たちをもっともっとこう伸ばしていくと言ったら失礼ですが、挑戦したいと思える人もいますし、若い人にもどんどん地域に還元させていくなど色んな意味で活かしてくれるような仕組みがほしいと考えていました。

(副会長) すごく勉強になりました。私も前提での質問してしまい申し訳ありませんでしたが、私の発言もそうですし、委員からももっとシビアに本気を出そうという、何か担い手みたいな言葉も大事だと思います。我々に教えていただいた内容だと地域経営という言葉も、もう少し使っていくとこの行政経営という言葉だけでフリーライダーみたいなイメージの市民が増えてしまうと困るので、行政経営とバランス良く使うためには地域経営という部分も総合計画の中でもう少し使っていくとバランスが悪く感じました。市民と一体となった行政運営が出来ている、市民をパートナーとする行政運営が出来ている、あと、タイトルを読んだだけで中身が見えてくるって言うか、少し長いのもう少しコンパクトにしてもいいのかと思いました。

(会長) 全てを議論していくのも難しいこともあるので、別に今の言葉を何かこう雰囲気でご理解いただけたらなどご理解いただけたらと思います。

(委員) 私も最初説明を聞いた時、理解に苦しく感じていましたが、皆さんの質問を通して理解が深まっていった感じになりました。あの意見がそれぞれ上がった通り、確かに行政ばかりが頑張るような計画になっていると思いました。この行政経営改革大綱は、市民にも開示されますか。

(事務局) 開示します。

(委員) 行政だけが頑張りますといった表現が長く感じたので、例えば、市民の人たちにもっと頑張ってもらわないと天草がなり立っていかないっていうのが多分実情だと思います。そこが全然市民側に伝わらないって言うか、極端な話し、市民税を大幅アップしますので、皆さん協力してください。というのを理解してもらえようような取り組みは、もっと市民に求めていき、それを理解してもらい協力してもらえようようなことに積極的に取り組んでいかないといけないと思います。しかし、そういった表現は一切なかったのが、市民はおんぶにだっこでもいいような計画になっていたのが、感想になって申し訳ないのですが、そういう意図が少し伝わりにくい文書になっていたと感じました。一つ案として、行政運営の市民参画の推進というところの表現方法の案として、行政と市民でつくる行政運営の

構築というような形で作ると市民も何かやらないといけないっていうニュアンスが少し織り込ましていけるといいのかなと思いました。

(委員) 理念のところは挑戦する行政経営というところで挑戦するということは、何か絶対に痛みを伴わないといけないなと思っていて、ここに書いてある内容だと行政側の効率化などの取り組みが書いてありますが、市民にとっても痛みになることはこういうことがあるという記載があって、今この痛みを飲み込まないと将来的に厳しいことになるかと判断してこの痛みを市民の皆さんと何か共有し、そこに挑んでいくといったような表現だと理念にも沿っているし、市民も協力していけると思います。

(副会長) こういう話し合いの場で自分も整理が出来ているので、非常に元気が出る会議だと、あらためて思いました。しかし、一方でこの資料が送られてきて見るだけでは、何となく分かりませんでした。今後、市民の方に見てもらい、本当に伝わるのかというのがあって。ものすごく言葉に流れてきてとても信頼できる内容だと思いますが、なぜ市民がやらないといけないのかということは何かヒールで例えた方がいいのではないかと話を聞いて思いました。つまり、同じ船にみんな乗っていて、普通だとこれお願いしますって、メニューはこういう風にしてほしいとか、お客さんとしての市民が注文出せばいいと。これならまだここは誇れる地域ですけど、今はヨットみたいなもので、全員でこがないと前に進まないという現状をきちんと認識した方がいいと思います。とてもいい資源もあり、いいヨットがありますが、みんなでやらないと前に進まない。資源も燃料も絶対必要で、そういう違いをまず認識するとしたら、人が喜んでくれるやお金をもらわなくても何かやりたいとみんなが思っている。何か貢献したい、もしヨットだったら、みんなの共同作業で前にやっと進みます。昔の戦後のいい時代だったら、大企業に入ればそれで大体見えてきたらラクでしたよ。でも、時代が違うし、この時代では今これを誇れる地域、このすごい色んなところが良いでしょ。こっちに来てみるみたいなこと言うためには、我々はきちんと自分たちで動いて、同じ船に乗っているという認識でみんなが漕ぎ出すと実感が出てすごいと言われてくると思います。私が言いたいのは、方向性を全部策定として出してもらっても、一体感として漕ぎ手、市民のみんなが楽しんで、大変であればあるほど達成する喜びが絶対出てくると思います。その達成する喜びが共有されるとやる気にも繋がってくると思うので。

(会長) 狙いははっきり書くとか、身近なところとして受け止められるようなこともきちんと用意していくとだと思えます。伝え方の工夫をお持ちの人は多いです。単に漫画にするといったそういうものではなく、みなさんが自分のこととして考えられるような工夫をしていくのは重要だということだと思えます。

(副会長) 市民に知っておいてほしいことっていうのは、すごく良いアイデアと思って、他にも経営という言葉で、最近なるほどと思ったのが学級経営です。小学校で考えると小学校の先生は学級経営をしないとけないと最近言われています。要は、カリキュラムのデザインなどですが、先生は大変だと思っています。昔は45人学級で、先生の言ったことが絶対で、みんな先生はえらい、親父も先生の言うことは聞きなさいって言われていましたが、今は、学校の先生は親の言うことを

聞きなさいと言う環境は変わっているなど。それは、責任を放棄しているのではなく、上手な経営をしようと思った時に先生にも出来ることを知ってもらいたいなことはなかなか言いにくいと思います。何か、そういうことも考えながら、その行政経営ということがよく分かるのですが、結局は、英語にした時に何なのかや、マネジメントってなんだろうと思いつつそれが伝わるように書かないと皆さんおっしゃっているみたいに伝わらないと思うので、伝える際には、行政用語ではなく伝わる言葉がいいと思います。中身は行政用語でいいと思いますので。

(委員) 確かに言葉がきちっと書かれていて、すごいことだと思いますが、一般の市民の方がこれをパッと読んで、どういうことかは多分わからないと思います。例えば、こうですよ、こういうことをやりますといった少し分かりやすいそういう表現の仕方をもう一つ持ってくるとか、そういうことでお伝えしていくというような状況を作ればどうかと思いました。どうしても言葉が分からない。確かに専門用語は分からない。そういう時に例えばこういうことですよとか、よく出てくるじゃないですか。逆に言えば、マイナンバーカードの取得推進、推進は何のためにするのかということが少しでも分かれば、興味を持っていただけると思います。少し分かりやすい表現を持った大綱にしてもらったらどうかと思いました。

(会長) 理解を促すことになりまして、何のためなのって言うのが考えたらなくて、早くマイナンバーカード取ってくださいとお願いしますが、それはもちろん市民サービス向上ということになりますが、いかにコストダウンだとか、バランスが難しいと思いますが。いつやらないといけないや理由がこうという言葉の説明をもっと意識的に分かるようにしておこうというのは重要なポイントかもしれません。用語を選ぶや砕けすぎた言葉という意味ではなく、何かこう伝わるような部分があったらいいと思います。

(委員) 今、皆さんの説明を聞いて、そういう仕組みと何となく理解が出来たところです。行政経営というのが、そもそもよく分かってなく、何をしたいのか、しているのかもよく分からずでしたが、企業の人からすると総合商社みたいなものというイメージが何となくわいてきました。そういうことを例えば市役所さんが総合商社であれば、あそこのサービスを受けたい、あそこ取引がしたいと思えるようなもう少し中身に先ほどから言われているような具体的な例やこういうものに挑みますといった見せ方もあるので、そこに合わせた挑戦するような具体的な内容や数字を、もう少し掲げられるといいのかなと思いました。

(会長) 行政経営というのは、天草市の地域の幸せを作る、実現するための総合商社かもしれません。そういうところの在り方を作っていくのが行政経営改革大綱の中で説明していかないと伝わらないでしょうし、それによって、きちんとこういう経営だということを数字で説明するとこういう状態も必要です。これまでは管理計画として、行政の中で削減していくという意味合いで内部的に管理しており公開はしましたけども、この新しい計画では、色んな意味合いで行政の在り方をもっともっと市民の皆さんが楽しく受け取ってもらった方が良い意味で思っています。そういう意味では、色んなことを見てもらうということも意図した方がいいかもしれません。行政経営改革大綱という名前で良いかということもあります。

少なくとも通称をつけてくのもいいかもしれません。行政経営というのはこういう考え方、定義によって天草市はこういう考え方をしないと実はうまくいかないのかもしれない。

(事務局) 確かに行政経営改革大綱ってということで、これまで内部においてどのように取り組んでいくという視点とで策定しておりました。行政経営とは何かということを変えて考えると、確かに総合商社であって、なら商社は会社であれば、当然、取引相手があるわけで、それは何かといえば、やっぱ市民になります。私たちも情報を提供していかないといけませんし、逆に市民のニーズにあった商品を作るとなればなりません。市民に分かるような伝え方と市民にも頑張ってもらえるには、その痛みはこういうところにあると思います。公共施設の再配置計画における廃止や統合など当然痛みが出てきます。いま住民説明会で回らせていただいています。ともにつながりということで、どのようにつながり合うということですが、私たちの一つの案といいますか、事例といいますか、やはり今回は、「自助」、「共助」、「公助」っていうところですね、公助については、今後なかなか手が届かないところが出てきますと。その中で、「自助」という部分で、自らが考えていくことが必要ですと。そして、「共助」という部分で、地域でいうと隣近所ですね。一緒にやってください。それが大きくなって集落、そして地域にと。その中でも、やはりその自ら動いていただくということが一番重要ではないかということをお伝えさせていただいています。あと、行政用語が分かりにくいというご意見もいただきました。普通使っており、当たり前に使ってしまうというのがあって、このようなご意見をどんどん言っていた方が、私たちも助かると思っております。今度も審議がありますので、色んなご意見を宜しくお願いいたします。

(会長) 今回のタイミングでバージョンアップ、アップデートとして、チューニングで上げていくといった意味で、行政経営の考え方も、改めてこうだよなってことを、ここで、あの作り直してしまうのかなと。ちょっとそういう意味で、市民にもご負担をお願いする部分があるのかもしれない。こういったことまで考えていきたいということ。今回、挑み続ける行政経営というフレーズはすごく大きいと思います。そういった意味で、行政経営ってこういう世界になったらいいということは、実はもう積極的に未来から考えてみようってことで、ある程度こういうのは行政経営だって定義だけじゃなくて、やはり天草市はこういうことを目指しているの、行政はこのような役割を持っていて、さらに挑み続けるとは、2027年にこういう行政がたっているということを語ることを出来るだけやっていきたいと思っております。行政なので、確実にやることを言わないといけないという感じになってしまうので、今回は、そういうことだけでなく、政策のところでも挑み続ける行政だからこそ、こういうこと考えていますと言うことを出していくということ。あと、書き方としては、ご提案ですけども、安定的にやる・確実にやることを書くのと、あと挑み続ける、志を書く、両方やった方がいいと思っております。

(副会長) 私もこのことはすごく大事で、行政経営改革大綱ですよ。そこがポイントと思っております。今、サステナブルっていう変わり続けることって日本語で言っています。割と確信を持って、これは正しいと思えるような感じになってきて

います、その時に、定期流行というのが大事です。全部変えていったら、変わり続けるにはなりません。やっぱり軸があって、流行の部分をちゃんとアップデートしていくことが大事だと思っています。安定してやっていくことと、変えていくことに、そして、考え続けることが大事です。あと、もう一つ最近よく言っているのは、今の世の中は白黒つけたがって、そしてどうしてもグレーも出てくるわけです。その部分を市民の皆さんと一緒にやっていくというのが一番大事じゃないかなって思っています。

(委員) 行政の経営改革には普通は痛みがあるわけです。だから諦めてしまうことの多くが、前例がないからということで、先に進められることが多いと思います。前例がないからこそ、チャンスだとみんなで考えるような気運が当たり前だということが、言葉で控えているのであれば、すごくチャレンジだと思います。面白い、やってみようみたいなことが、今まで前例にとらわれているとすると、そこを変えるだけで、ものすごくいい方向に向かうと思います。行政の担当者自身で前例がないからどうしましょうか。みたいな理論の場が広まるっていいと思います。

(会長) この審議会は、諮問を受け、市の方々が考えられたことをしっかりと出していただいて、それを審議していきたいと思います。挑み続けるのですから、前例がない、他ではやってない、予算がないと言わないことを前提にしていきたいと思います。審議会としても、こういうようなことを意識してもらいたいと思います。挑戦するということは、痛みも伴うし、難しいこともあるからこそ重要なことだと思います。いただいた時間は、次もまだありますので、この議題に関しましてはここで終了したいと思います。

## (2) 第3次天草市総合計画の策定について

### ・基本構想他について

#### ○事務局説明

(副会長) 何度も申し上げますが、理念の図です。会長から以前東川町の話をお伺ったので、東川町の総合政策の書類などを見ていましたが、写真の町東川、すごいなと思いました。僕らでさえもこうやって言葉で自分が喋りながら他の人の意見を聞いて、なるほどと思ったり、整えていきます。でこの段階でも僕らは大きく変わるつもりはないので、まさにあとはデザインです。一刻も早くデザイナーの人に作ってもらうというのが一番だと思います。この5つの理念を形にしてという発注の仕方ではなく、デザイナーとしてもう一度この政策をデザインしてもらうようなつもりで発注した方が良いと思います。申し上げるともう私たちの仕事は超えているというか、そうじゃないかなと思っています。国交省の政策でもきちんととしたデザインが入っているか入っていないかで全然違うので、もし天草市さんがそこまでやるのであれば、私は早めにデザイナーの人に委託して、一緒に考えてくれる人が良いと思います。すごい名がある人でなくてもいいと思います。地元の方でもいいから、きちんとデザインマインドを持った人、場合によってはチームになってもらって、入っていただいたほうがゆくゆくは天草市さんのパートナーとしてやっていくようなデザイナ

ーに入っていた方が良いと思っているので申し上げました。

(事務局) 現在、本市が大学と連携協定を行っているその中に京都芸術大学があります。京都芸術大学からは毎年学生にも来ていただいております。教授にも来ていただいております。京都芸術大学には、情報デザイン学科もありますので、一緒に取り組めないかということをお話しております。現在は全体的なイメージをということでお話ししております。まずは学生の若い視点を取り入れ、誰もが手に取ってみたいということレイアウトをお願いしたいと考えております。本日のご意見も踏まえこれから協議を進めてまいります。

(副会長) ナイスアイデアと思います。しかし、しかるべき対価を払った方が良いと思います。連携教育を結んでいるからと言って、学生さんでいいのですが、大事なのは先生です。本気で関わってくれないと全く役に立たないかもしれません。この総合計画のことをきちんと分かってデザイナーとして関わってくれる人を雇わないと全く意味がないと思います。この審議会に来るというくらいのやる気のあるデザイナーじゃないと多分払う意味はないと思います。このことは出題だと思って学生にここに来させて、私が先生だとしたらそうします。総合計画のことの勉強や東川町のデザインもきちんと勉強させなど、そうしないと絶対にいい作品はできないと思います。ここにはきちんととお金かけてやった方が良いと思います。

(事務局) 確かにここにおいていただいで一緒に勉強していただくということも重要と思います。私達も発注する側としてどういった意図をもって作成するのが必要ですし、デザインしていただく側からも逆に提案をしていただいでそれをすり合わせていく。そういうことが重要と思います。大学と話をしながら進めていければと思います。

(副会長) ほんとにチャンスなので、京都芸術大学の学生さんの中で天草市の総合計画をデザインしたら移住してきてくれるというぐらい本気で考えていただくことだと思います。すごく大事なビジネスツールでこんな機会はなかなかないですし、先ほどもありましたが、前例がないことをやろうとしているんだから、相当いろんな事をやらないと出来上がった総合計画書は普通の総合計画書と一緒になると思います。

(事務局) わかりました。

(会長) 同じ事やろうとしてもそういうデザインとかクリエイティブな人たちがそういう大学を出ても皆さん実感されていると。天草に来て天草の空気を吸いながら、天草の一員としてやっている。それは別に日常的にはちょっと離れていた方が良い方向になるかもしれません。共感するやり方はたくさんあると思います。コミュニケーションでの皆さんの共感はずごく、伝え方が全然違うし変わると思います。

(副会長) 写真の町、東川町みたいなのをもしやろうと思うと、例えば、電通と熊日広告社と天草市内のデザイン会社と京都芸術大学の4社で提案させて、地元のデザイナーが勝つというのが一番おいしいパターン。それぐらい企画をした方が良いと思います。そうじゃないとあんな素敵な写真の町、写真文化思考、東川町なんていうコンセプトは絶対に出ないと思います。アマビズもありますし、それぐらいの感覚、ブランディングしないと。今はそれがやれる時代なの



で、ぜひやってほしいです。

(会長) 結局、地元の人でもその感覚で皆さんがやっていくと結局は地域の立場としてもいろいろな事をやってくれる方が自分のこととして体を動かしていくことになるのではないのでしょうか。

(副会長) 天草市の概要等で、天草市を取り巻く社会情勢の課題があります。ここはすごく読まれるところで、大事なところだと思います。今の天草市はどういうふうなところを分析しているということを教えてもらうところになります。ここを読みたいと思いますが、まず人口減少及び少子高齢化の進行で天草市の人口総数の推移、天草市の年齢人口等割合の推移と二つグラフがあって、この人口減少及び少子高齢化進行だけがすごく解説されています。他の黒丸はほとんど説明がなくどう読んでいいかが分かりません。この黒丸は並列なのかそれともこの最初の人口減少及び少子高齢化の進行だけは特に大事なので黒丸じゃなくて二重丸にしておくとか、構成がよくわからないので、他のやつもグラフを付けるなら全部つけないといけないと思います。そうじゃなくても、もう大前提として人口減少が大問題だから、これだけ特出しているのだったら、そういうふうな建付けにしないと、読めないと思いました。項目が少し多すぎるといふか、もう少し絞って書いた方が、後ろのその5つのもしくは4つプラスワンに対応しているということが見えるかもしれません。その辺が結局デザイン的な思考というかこういう風に考えられているからこういう解決策はこうしているというのを説明しなきゃいけないんですよ。別に数合わせの話ではなく、こうだからこうっていう説明をさせないと良い方にならないので、一回考え直していただきたいと思いました。

(会長) 本当は皆さんにお願いした方が良いと思いますが、でもそういう方々に関わったほうが多分やりやすいとも思います。

(委員) 中学校の教科書ぐらいにしたいですね。大体の人に分かりやすいほうがいいと思います。総合計画は、行政の方が今の天草のことをどう捉えているかというメッセージです。それが伝わらないと。あとは伝えるだけだから、それは外注にした方が良くないかもしれません。

(会長) 基本構想を説明するための背景が必要だと思います。ともにつながり幸せ実感、宝の島をなぜやらないといけないのかということの問いにきちんと答えないとイケません。表に出すことはいろいろな面で大変と思いますが、チャンスでもあります。掲げているテーマに対して、なぜそれが必要なのということをうまく伝えることが必要だと思います。

(委員) つながり稼げるまちの政策と、それからありたい姿の連動性は非常に分かりませんが、もう少し具体的な戦略の部分があればと思いました。例えば、天草の魚介類、魚のお刺身が美味しいところは天草しかなければいいのですが、車エビや伊勢海老といった一般的なところで、もう少しブランド化するという戦略を作っていくのはまさに武器になるのではないかと思います。天草大王というネーミングもすごくいいのですが、まだ全国区では実はありません。鯛の養殖で、天草大王があるのだったら天草鯛王、牡蠣があるのだったら天草牡蠣王といったシリーズ化したネーミングもいいかもしれません。見栄えから入ることが今までではなくてもよかったと知れませんが、ブランド戦略は、資産に見えない資産として

すごく直結すると思います。もう少し一歩進めるのであれば、デザインしたそのブランド化を目指すみたいなことを行政がやっていかないと、事業者はできないと思います。理念の中でうまくどうやって「HOW」の部分を経営的にいうのがあれば自信ができてくると思います。

(会長) 私が思ったのは、もしかしたらその政策は言い方の一つであって、政策で書いたベースが既存の何かと同じで説明が見えてしまうから少し自信がないといった感じに見えるのかもしれませんが。場合によっては政策にサブタイトルをつけたり、ここがポイントといったものを見せたりする。そういった意味で市民の方々にはこれをお願いしたい、こういったことを伝えたいといったことを場合によっては記載した方がよいのかもしれませんが。ありがたい姿を実現するということをもっと別に分かりやすくしていくような象徴的なフレーズがあってもいいかもしれません。

・理念「ともに学びともに育つまち」

#### ○事務局説明

(会長) ありがたい姿1に関しては、関連する政策が5つほどあり、この5つのものというのは関連するということであるところであるのですが、この政策1や2でこの辺りまで意識すると実は政策は計画に入っているといった事もあるかもしれません。例えば、大学等の連携では、大学等と連携することで地域の課題解決に役立つと記載されています。そのことは、市民活動の取り組みに当然影響するからそういったことができると考えているとここで終わらせるのではなく、関連する政策がそれぞれ政策の下での施策にも意識的に取り込んでいくとで反面する政策である内容がこの政策1とか2といった意味合いで影響あり、だから意識しているといった補足プラスのことを考えていられるかご説明いただければと思います。

(事務局) 関連する政策がこのありがたい姿にどのように関係しているかということの質問だと思います。大学等との連携につきましては、政策企画課で取り組んでいます。この大学との連携の中では各種の講座等を開催しています。大学生と一緒に、地域の課題解決に向けた勉強や大学の講師に来て頂いて様々な講座を開催いただいております。その講座、大学と連携した中でその地域性の課題や新たな地域活動が行われるために行っているといった意味で位置づけ、関連政策としてあげているということになります。他にも大学の一緒になり課題に取り組むという部分をもって関連するとまとめているという事になります。

(会長) 私は、できるだけ政策の方で他の政策側と連動を考えるとといったことを意識的に書いてみていただいたほうがいいと思っています。先に関連した政策が書いてあって、関連した政策として、また、同じように政策が結びつくと表現すると非常に大変だと思うので、主たる政策の中で政策側との連携としてこういうことを行うということを確認できればいいのではないのでしょうか。

(事務局) 確かに、他の施策計画の中に大学の連携といったやり方を中に入れ込んだら分かりやすいのかもしれませんが。

(会長) 関連する政策がどこにどう関連するのかっていうことをもう一歩書いて頂くと主たる政策の方で管理者できるのではないのでしょうか。

(委員) 政策の課題についてですが、政策がふわっとした感じがしていて、もう少し踏み込みほしいと思いました。たとえば、学校給食の充実はすごく重要で、地元の料理を取り入れるといたことはとてもありがたいです。ただ、かけ算で言ったら、例えば、多文化の共生社会の他の文化圏の人のことを理解するための取り組みとしてお国自慢の料理を地元の食材を使って給食で出すといったもう少し踏み込んだことをやってもいいかもしれません。

(委員) 例としてこういったものに取り組みますといった具体例がところどころでも入っていると何となくイメージがしやすくなるのではないかと思います。

(事務局) 具体的な内容、取り組みについては基本計画の下の実施計画というところになると思います。一つ書けば、他にも出てきて、それだけがイメージが強くなってしまふかもしれません。ご意見としてもっともな話しですが、総合計画としては大きな視点として考えていければと考えております。

(委員) 具体例的なことがあるとみたいなのがあると、見る人は何となく分かると思ひ意見しました。実施計画があるっていうのを知っていて読んでいたら、ふわっとした表現でもいいのかもしれない。

(事務局) 総合計画の体系説明及びイメージの中でも実施計画があることは示しています。総合政策審議会では、基本構想と基本計画を審議して頂く部分になりますので、実施計画までは今は説明しておりませんが、確かに具体的な事例という事になれば、実施計画もあるとわかりやすいかもしれません。

(副会長) 皆さんがおっしゃっていたみたいになりたい姿と政策も大事ですが、部門のところも大事だと思っていて、行政の皆さんが単一部局でお仕事をせず、他の部局と連携する時に、ここに書いてあるからやれるというような使われ方を行政の方がされると思っています。書いてないからやりにくいということも出てくると思っています。民間は逆にそれには縛られることはなく、やっていくといいと思ひいます。そういう使い方として、あまりにもこの政策が増えすぎると難しくなると思っています。例えば、生涯学習に関しては、多く出てくると思ひますが、ここをもう少し減らすということも大事だと思ひます。あまりにも多く整理がつかんから各部局で1つくらいに絞って連携していくことでもいいかもしれません。一つ心配なのが、文化歴史を考えたときに、天草キリシタン文化ののでは、漁村の関係を必ず守らないといけないということがあります。自分たちで使い易い、政策を入れていくことも考えないといけないのではないかと少し思ひました。他のところでもこのようなことがあるかれませんので、行政の方が使いやすくするといった観点も必要かなと思ひました。

(会長) 多すぎるのもどうかということも含め、この計画期間で何を行っていくのかを考えることも重要かもしれません。ありたい姿にはどうしても歴史と文化を認め合うということは、どうしても文化財として登録されている物をどう考えるかといった方がわかりやすいかも知れませんが、生活文化、漁村集落なども大切な文化だということです。このことがどこに見えるかという事を考えたらいいいのかもしれない。

(副会長) 今、会長がおっしゃった通り、歴史文化と考えるとどうしても文化財などに縛られてしまひが他にもあるということです。今の部門だと地域振興部門と都市基

盤整備部門しか絡めないと見えてしまいます。産業経済部門が絡む事でより骨太になるかもしれません。

(会長) 関連する政策を意識的、戦略的と考え、意識的な位置づけをするとあれもこれとなってしまい、全部関連してしまいます。しかし、特に関連する政策に移行した方がいいのかもしれませんが。加えて、主な政策の方でも意図してこの政策と連携していくといった意味合いでこれからは取り組んでいくということも検討していいかもしれません。そうすることでメリハリというか、抜きん出てくるかもしれません。

(委員) ターゲットがそれぞれ明確になっていて、横軸がないと感じました。スポーツに関する、子育てに関する事をそれぞれのテーマで、学生だったら、ビジネスマンだったら、経営者だったといったそのような視点でも必要かなと思いました。例えばスポーツだったらスポーツの政策をやるのは一般論ですが、ターゲットとして、高齢の方や学生それぞれでどんな問題はないか、折り合えるかというその政策側のする事がまず頭にあって、そこに具体策がある。その結果、市民が地域でいきいきと暮らしているとなげると思います。

(会長) ありがたい姿になる必要性のところ、基本計画として有り得ることをまず利用して書くというのが現状だと思います。基本計画が成り立つと丁度いいということです。その時にどうしても誰をターゲットにしているのかが曖昧だなということがと思います。ありがたい姿を実現するためにはこういう方々に対して、こういうアプローチで何か取り組んだ方がいいということより明確にしていくことも一つかもしれませんが、総合計画としては、将来像を実現するためにこういった方々を意識的にフォーカスするというのではなく、全体として取り組んでいくこととして、その下としてどう取り組んでいくということを検討した方がいいかもしれません。

(副会長) 地域の個性や特徴を活かした地域活動や課題として、区長があるかもしれません。今、地域で一番苦しい立場の人は区長さんと思っています。一人一人の意識改革があれば、区長さんはもっと楽に仕事できると思いますが、あれもやり、これもやりで、今までの上の人顔も立てないといけいない。区長さんに対するフォローみたいことがあるいいかもしれません。

(事務局) 区長さんに対しては、まちづくり協議会や地区振興会があり、その地域支援があります。その関係の団体には市からも皆さんでまちづくりが進められるようにも支援しております。そう言うようなところで区長さんへの支援とした取り組みを行っています。

(副会長) 総合計画を市民へおろしていくときには、そういった聞かれ方をしたいと思います。「私はどこで助けてもらえるのか」となったら、「ここに対応します」と言ったらすぐ分かると思います。ただそんな、発端になったことだけ書いたらいいというか、書く量を減らした方が汎用性をつくかなと思いました。

(事務局) 現在は、ニーズの多様化、複雑化に対応という所で、区長さんのことも含め広くふわっとした内容で課題として記載しているところです。

(委員) 男女共同参画社会推進に関してはこれまでも議論の中で話があったと思いますが、もう男女共同参画社会というこうことは、今ですら何か平等な社会になって

いるので、この先では、もっと当たり前の社会になっていると思います。このネーミングでいいのでしょうか。男女の格差問題以外にも聞こえるようにもっと広く言った方がいいと思います。ネーミングが男女共同参画っていうことでいいのかということです。

(副会長) 私もネーミングについて考えることが大切だと思います。ただ、ここになってくるとライターの方の仕事だと思います。

(事務局) 今おっしゃった男女共同参画社会がもう実現できているというご意見だと思いますが、実際は、まだまだそういう状況にはありません。なので、そこは進めて行かなければならないということで政策として掲げております。国の方もまだこのような考えで取り組んでいくこととなっております。表現につきましては、全体的に見直しが必要ならば、考える必要があると思います。

(会長) やるべきテーマではあるということですね。あとは、この計画の期間に何をするのかということです。みたいな事をまあ重複できないかなってところですね。施策計画は、比較的特色化してきていると思います。「この基本計画期間においては特にここです。」みたいなことをもう一段出していくと何か見えやすくなるかもしれません。難しいと思いますが。男女共同参画社会の推進みたいなサブタイトルをつけてみるなど。〇〇だからこういうことをやっていくとことで、この多様性を認め合い、互いを尊重する話になるってことに近づくということだと思います。せっかく現状と課題を見ていただいたので。

(委員) 優先順位をつけるなど計画期間の中で達成しないといけない課題を示した方が、その後にも続いてきますし、言葉の選び方も明確になってくると感じました。

(会長) 市役所の皆さんは、本当によく頑張って書いて頂いていると思っています。また、ここまで踏み込んで言いにくい部分も課題として捉えられていると思います。その時にだからこそこういうことを具体的に出していけると天草市は凄いなと思っていいと思います。例えば、男女共同参画の課題は常にユニバーサルな課題もあると思います。だけでも、だからこそ、こういう登用を計るといった話を具体的にもっと外に伝えていくことも必要だということです。全体的な感覚としても。

(副会長) 凄いな内容がほんとに詰まってまとまっているはずですが、それが伝わっていないのか。何か行政的にいつもの方向に書いてある位にしか感じなかったのですけど、よく読むと無茶苦茶挑戦的な方でまとまっているという話になるようにですね。

(会長) だからこそ何かもう少し見える感が必要です。だからこそ四年間にこだわるようにしたいですって事をもっと熱烈に言える条件があればいいですね。

(委員) 課題を解決するのがやはり施策だと思います。ここに書いてある成果目標になると思いますが、例えば男女共同参画の実現では、一般的には上場企業の中で女性役員は三割に目標があると思います。一般の政策で見ると結構数字が書いてあるところがあり、その難易度や課題が数値として見えてある程度解決するということに繋がるような気がしています。

(事務局) 今後、成果指標という指標を設定します。その指標では、例えば、男女登用率が何パーセントかっていうのを何パーセント上げるといった指標の目標値も設

定めます。そういった成果指標の現状値の中で把握して頂く事になると思います。

(委員) 確か私も前に見た覚えがあって、それが全部ここにある、それを実現する為の手段があると具体化されていくと思います。

(会長) 成果指標としてこの施策計画が目指すべきことを見やすくする一つの方法だと思っています。加えて、今置かれている状況を説明することを数字として表した成果指標であればいいとも思います。しかし、先ほどから話が出ている審議会への女性登用率は、企業における女性社員の比率や男女の格差、男女の違いを示す指標として数字が幾つかあるのならその部分を使われてもいいのかもしれませんが。そういうことで現状として見ていただくのも一つありかもしれません。結果的には成果指標だけであればそれでいいかも知れませんが、現状をその数字で見えてくるといいかもしれません。あと、こう様子が見えるような、表現を共通でしようという事に変化をということですね。場合によっては、複数の話に対してでもいいですし、無理やり政策を一個にしなくても分けていけたら分けていいと思います。抽象度あげていくためには、複数入ったり、複数で分けていくことも必要かもしれません。それは中身が変化することかもしれないですが、このタイミングなんですという言い方もできません。あまりにも複数のものが過ぎると思う時にはあえて分けて頂いた方がより何をするためのものなのか、他の政策とも連携しやすくとか、考えやすくなると思います。

(委員) 政策立案の時のプロセスでお伺いしたいのですが、例えば、次世代の担い手の育成というのは誰の為やるかという、学生や親、先生とそういう方々に色々ヒヤリングした上での優先順位つけ、こういう政策に落とされているのでしょうか。多文化共生社会の実現もこれは誰の為にやっているかといったら外国の方のため、外国の方が今ここで何が欲しい、総合窓口がほしい、日本語教室がほしい、そういったことから政策を作られているのか教えてください。

(事務局) 多文化共生では、外国人の市内居住者皆さんにアンケートをとります。その中で、日本語教室の牛深の方でも開催できないかなどご意見や要望があります。そういった部分を踏まえ、優先順位と言いますか、課題を点検しています。

・理念「つながり稼げるまち」

#### ○事務局説明

(会長) 事務局から宿泊にこだわってこうという説明がありましたが、その部分は指標に反映すると思うのですが、施策計画ではなくその部分をもっと見えた方がいいと思いました。あと、本日の説明を聞いていると後期基本計画の中として取り組んでいる中でそういった気づきになった部分をもう少し出していただいてもいいのかもしれませんが、その他の取り組みとの関係性も出していただいたほうがいいと思います。

(事務局) 政策との関連として、一次産業やスポーツ大会の誘致、自然環境の活用などの関連する政策として多くなったと思っております。また、これまでの取り組みも含めもう少し具体的につて言うようなところでは、現在取り組みを始めた車両ナンバー解析システムを今後も活用し、分析をしながら、潜在的にプロモーションをしていき、宿泊を目指すということで、夕方や朝、夜の天草での体験において

のプロモーションを中心にやっていきたいと考えております。

(委員) 観光の部分先ほど説明がありました、潜在的にすごい力があるから逆にもうゼロベースでブランド戦略みたいなことを組み立てるとすごい資産になるのではないのでしょうか。天草の市場でブランドは高くはなっているといわれますがまだまだだと思えます。例えば、その生産物に関しても今治タオルみたいな付加価値をストーリー立てし、魅力づくりをされる方法もあると思えます。最終的には天草の一つ一つがブランドになっていくところを指標の一つとして入れたら推進力が増すのではないかと説明を聞いて感じました。天草には非常に強いラインナップがあると思うので、ブランド化するためにはどうしたらいいかということを考えてもいい時期と思いました。

(事務局) 現状、今の天草市には開発資源が多くありますが、天草市の住民の皆さん、観光業や飲食店の方も、もう少しおもてなしのレベルを上げ、そして受け入れ態勢がきちんとできていくことでたくさんの方が来ていただいて必ず喜んでいただけるというようなところをまず作っていき、その次がブランドカラーと考えている部分があります。今後一気にこのブランド化を進めるというところを心配しており、一度来ていただいてがっかりされるともう次はないと思えますので、まずは受け入れる体制がきちんとなってからブランド化は次の段階と思っています。

(委員) 今おっしゃった通りだと思いますし、致命傷には決してならないですけど、例えばクレジットカードが使えるお店が非常に少ないと思えます。そのような対応や改善に向けた支援も考えてもらいたいです。

(委員) 本当に行政がプロモーションや観光インフラ整えますというより、もっとおもてなしを頑張ろうというところが必要かもしれません。それがないと観光プロモーションした意味もないかもしれません。

(事務局) なかなかそこをそのまま伝えることが難しいところがあります。

(委員) そこが行政として挑戦していくこととして、観光に携わる人たちも一緒に調整してほしい部分が見えると協力しやすいなと感じました。

(事務局) 今も一生懸命、そのように気持ちが向いてくれている事業者さんも当然あります。ただ、天草市全体で観光地としてやっていくときにそういうのもあるので、全体的に考えていく必要があると考えております。

(委員) そこは、今までとなかなか取り組んでいるけどもうまくいかないというところであれば、まさしく、挑戦になる部分になると思うので、もうぶち壊すといったぐらいの見えた方が良く感じました。

(委員) 今のご意見で、おもてなしは数10年以上前からしっかりしまししょうとってきました。しかし、今となってもまだできないからおもてなしの後にブランド化しまししょう、ブランド化を推進しまししょうはおかしいと思えます。ここは平行してやっていくといた手腕を見せてもらいたいと感じがします。

(会長) 総合計画を作るタイミングでは、そういうあえて言わないといけない時もあります。千載一遇のチャンスでもあるので、遠慮なく言いませんかという意見だと思います。何か、達成したいことをきちんと決め、確認し直したいなんですねということ念頭に。そういったことが進むためには基本計画の中で頭出しが出来て

いいと思います。そうすると観光地としての天草がしっかりと色々な皆さんに期待や信頼に応えられるということになってきて、具体的にはことになると思います。全体的にも言えますが、頭出しが出来るいいかと思います。

(副会長) 先ほどから皆さんの熱心な意見が出ていますが、やっぱり観光は難しいと思います。聞くところ要は観光業だけでなっている地域は逆に危ない。そんな都市は実はなくて、有名な観光地には他の作業があって成り立っていると聞きました。この4年を見てもコロナで状況が変わってきたり、またインバウンド対策をどう進めていくといった観光に付加的なもの必要と思っています。よっぽど天草は観光でやっていけるという地域であるのだったら別ですけど、結局、観光業は地域学習としての観光みたいなもので、石見銀山だとかと一緒にだと思っていて、そうならざるおえないと思います。そういう意味で言うと、今の魅力ある観光の創造一点にこの8年間かけてみるっていうやり方は、案外良いと私は思っています。観光をだしに他の産業が潤うみたいなそういう逆転の発想みたいなことをこの8年間で考えられると今まで委員の皆様がご指摘されたよう部分にもつながり、逆に言うと他の産業がまだまだ奮える余地があるのかなみたいなことを考えるといいのかなと思いました。他のところでは関連政策は少ない方が良いのではないかとさっきまでは思っていたのですが、今こうやってみるとここにたくさんぶら下がっていて、一個一個試してみるとかでもなんか良いのかもかもしれません。

(会長) 同じ事やったとしてもそれだけ循環が多ければ多いだけ、地域内での価値が上がり、経済効果にもつながると思います。できるだけ多くのことが小数効果でもいいので、デザイン構想上にもあるようだといいかもしれません。これまでの意見を聞いていて、上手く繋がっているのかなと思うところもありまして、天草に来てもらうというのは最大の強みでもあるわけです。その方々に対して、何か継続的な関係を作っていくというのは一つの強みになると思います。それこそ継続的なマーケティングについても、一過性の関係で宿泊して帰ってもらうのももちろん悪くはないですけども、継続的に関わってもらう、また来てもらうことで重要かもしれません。

(事務局) 観光産業で大事なのは専門家の方に聞くとリピーターといわれます。来られたお客様に満足して帰っていただくということが一番基本と思っています。

(副会長) 島であることのメリットとして半分は海なので、何を今更って思われるかもしれませんが、昨日まで行っていたところが農山漁村みたいな半農半漁みたいな地域でした。海が調子いい時もあれば、その海が調子悪い時、イワシが取れなくなったときは畑でモノを作って、また調子よくなったら海に戻るといった単純なこともいいかもしれません。例えばガソリンが使えなくなって、車の利用が相当遅くなった場合に逆に、新しい燃料で船の方が便利とかがっていう時代が来る可能性はあると思います。ちょっと簡単にあきらめないで、海は資産で、そういうのを使うと大きな産業に繋がってもいきます。天草は肉も美味しいし、畜産とかもあるし林業も盛んだということは知っているので、その海だけに固執するわけじゃないですけど、もう少し半分は海ということを意識されて、過ぎませんかといってもいいかもしれません。少し広げるようなことを申し上げますが、市役所からそういった雰囲気を出していかないと、民間ではなかなかそういうのは考えつか



ないので、こう行政の中にもこのような考えを浸透させていく。半分は海みたいなやつで。海賊を待ってますみたいなそういうプロモーションとかは有りかなと思っています。

・理念「やさしさと安心のまち」

#### ○事務局説明

(副会長) このやさしさと安心のまちは、委員の方からもたくさん意見が出て、相当もまれていると思いました。バランスがいいと思ったのであまりないのですが、例えば、先ほどの観光の所で話がありましたが、天草での暮らしが共感をうみ、多くの人に移住・定住しているみたいなのが観光に繋がっているということだと思います。そういう、こう連携が欲しいなと思います。ここでは、魅力ある観光の創造がうたわれていますが、それがまさに移住・定住に繋がっていると感じています。本当はそのような部分も見えればと思いました。あと、都市基盤整備部門のみなさんは、ここで活躍されていることが凄くよくわかります。市の土木としてはここがテリトリーだとよくわかりますが、本来は自然と共生するまちの次のありたい姿のところ为本丸だと思います。そこは県とか国がやるとこでと思われる部分があるかもしれませんが、今大事なのはそういう市民生活に繋がるとこのインフラをどうやって自然と共生させるか、その関連も必要かもしれません。同じように資源の循環が図られ、最適な町づくりが行われている中で、循環が書いてあり、そこには水が入ってないとおかしくて、27番の持続可能な上下水道とかと関連施策として、ここに入れておくべきだと思います。冒頭であったのですが書いてないとやりにくく、できれば1個ずつくらいは最低入れてもらえたらいいかと思いました。

(事務局) 自然と共生するまちの中に確かに先程おっしゃった通り、その道路の景観がありますけど、道路をどう作っていく中でどういった部分を考慮する必要があると自然の中に親しみながらの環境作りについてつながっていくかもしれません。そういったことを意識して作ろうと、意識して作らないと取り違ってしまうので、直接ではなくても間接的に入って頂いてそういう意識を持っていきたいと思えます。

(会長) そのあたり、ご検討いただけたらと思います。総合的水準にたつての総合計画となりますので、組み合わせを考えて頂きたいと思えます。あと、今話して頂いた話の中で移住・定住の話もあつたりしましたが、移住・定住が理想的ですが、観光誘客者が移住に繋がるということも大きなひとつのゴールとしてもいいのかもしれませんが。そうすると、より重要に感じ、また、興味ややりがいを感じて移住してもらえるっていうことになるかもしれません。政策の方からみてありたい姿と関連政策の方をこうそれぞれ拾っていくっていう風にするるとより効果的になっていくという事です。

(委員) 移住・定住の促進で、例えばこの課題がクリアされればたくさんの移住者がくるのかというとまだまだで、ネット環境や仕事、それらが先程にあつて、あと公共交通機関ですね、普通に空港からくる場合はバスが必要で、天草エアラインも一機しかない部分は日常の課題だと思います。移住者の方にとって何が課題かわからないのが課題というのものもあるかもしれません。遊びにくると住むのは違いま

すので、非常にあの、この特に、政策33っていうのはそれこそこれだけの課題をクリアすればどう考えてもまずは課題を抽出した方がいいと思いました。Iターン、Uターン、Jターンを含めた定住の促進はかなり重要視して細かく対応をされた方が風に思います。

(委員) 今のコロナ渦の中で私が今思っている事を言っている方がいいですか。大きな目標でつながりが一番上にきていると思います。しかし、今は母さんたちが繋がりを今なくして、防災や色んなまちづくりの中で、共助っていうのが安心して地域で暮らせる環境作りという中に入っていると思いますが、その共助が今は見えにくいと感じています。今のコロナ渦で助け合える環境が本当にできているのかと感じてしまって、実際保育園が休園になると仕事しているママたちは休まないといけない。そこで介護とか医療のお仕事をしている現場が困っているということははっきりと問題点として見ているので、その共助っていう所で繋がりが助け合う、優しい町づくりとしてももう少し取り組みというか、仕組み作りがあった方がいいと思いました。

(副会長) 私もまさにそれが言いたかったことです。言葉出して。面倒臭いっていう言葉は、出来る人が話す言葉だっている話をしていて、出来るけど面倒臭いっていう話で、面倒臭いと言ってる人は出来るけどやりたくないと言っているということです。共生・共助というと、出来ている、やれるでしょ、みたいな共助に至らないと思っている人たちが実はたくさんいて、結局甘えてしまうのではないかと感じて声が出せないという状況だと思います。セーフティネットをどう引くかということだと思いますが、その部分は線を引くとどっちかにならないといけなくなって、グレーな部分がなくなってしまいます。そこを上手に救う仕組みを作らないといけないと思います。私は民間がやるのかなと思わなくありませんが、上から救う下からこう助けるみたいなグレーな所があるということです。

(会長) 今回は、来像とともに繋がりがだし、安全安心、コロナの状況だからっていう事をこちらの範囲ですけど、今繋がりにくくなっているということもあり、人口が減れば人と人がつながりにくくなっているということもあります。しかし、どんどんと人とのつながりは増えやすいので、意図的につながり、ともにつながり幸せ実感するっていうことを、全ての所で考えないといけないところかもしれません。

(副会長) この総合計画は凄く良いので、伝わらないともったいないと思います。私が耳にするのは、行政の人と市民の会話だと「どこに書いてあるのですか」と言ったら、行政の人が一生懸命「ここにこうやって書いてあります。」と説明され、確かに書いてはあります。しかし、市民にはそれが見えていないということです。もしくは見えにくいのかもかもしれません。凄くいい言葉で、共助が見えにくいというのが凄く配慮のある言葉で実際そうだと思います。行政の人はきちんと書いたということはよく分かるんですけど、結局は伝わっていないということは書いてない一緒だということです。書いてない事は出来ないし、書きすぎると分かりにくくなってしまう。ここまできたのは凄くいいことなので、あとはいかにブラッシュアップしていくかを外に依頼をすることも必要かもしれません。

(委員) 言葉としてはだからとても地域住民の共助に、活動充実を図りますというのが大

事な計画だと思えます。それに基づいて色々な事業がここで成り立っていくのかなって思いますが、実は前にも言ったように地域住民の連携が私たちには見えてこないで、例えばその、高齢者の計画があったり、子育ての分野の計画があったりすると思えますが、その中にどこで繋がっているのかがなかなか見えていないと思えます。

(事務局) 現在、総合計画が作成の途中ですが、平行する形で福祉部門では、最重要計画という所で地域福祉計画を今作成しております。総合計画に合わせ、子育てや高齢者、障がいなどそういういったのものを包括的な最上位計画ということで計画をしております。その中では、ご理解頂けるような形で考えています。

(委員) ぜひ、あのそこを宜しくお願いいたします。

(事務局) 昨年の第3次総合計画の策定方針をお示しした時にまさにその自助、共助を念頭に置いた策定の仕方をしますと私たち自身が書いてなかなかそこ反映出来ない部分があるのかもしれない。

(会長) この総合計画を実現するには、この自助・共助、この繋がるということが重要視してされていると思えます。それを全体的にありたい姿を実現する目標として考えていくとそれぞれの政策や政策計画にもっとこうしたらいいということが見えてくるのかもしれない。今回の総合計画の作り方は、本来であれば市民もにとありますので、今回のように濃い議論をしながら確認等お願い出来ればと思えます。

・理念「自然と共生するまち」

#### ○事務局説明

(副会長) 本来は自然との共生っていうのは土木とか都市基盤を作っているところともやっつけていかなければいけないことだと思います。そこの連携は、市役所の仕事ではないかもしれませんが、繋がるというところで県とのつながりや国とのつながりってことを考えていただければと思えます。共助の話を考えてみると要は土木の考えで行くと、公助は国か県がやって、共助は市役所が市民とだと思います。民間のネットワークは国道から県道で、市道がそこに繋がっていくことに本当に意味があるので、まさにつながりがこれから大事になってくると思っております。そのことを総合計画のなかで、それをどうやって掲載していくかすごい難しいところでもあります。でもそこができれば日常の道がつながって先の観光につながってといった意味の繋がるもあると思えます。知恵の出どころと思えます。あと、自然環境のメンテナンスやみ問題とかってどこになりますか。

(事務局) 政策35の施策計画2となります。

(委員) これは、生活ごみのほうですね。

(事務局) 生活ごみです。

(委員) 災害ごみとか産業廃棄物とかは入ってないのですか。

(事務局) 災害ごみの記載はありません。

(副会長) あと、私は環境の問題と重ねてインフラの長寿命化とか本当は入っていて、要はメンテナンスで使い続けるというのが結局、脱炭素っていう文脈だと思っております。それは正直に言うと県とか国の仕事にも入っているの、なかなか市役所レベルでそういうのは難しいと思えますが。

(事務局) 市レベルでも維持管理費、橋梁の保守点検などは主体的にやってきています。国や県だけでなく市も同じような取り組みで長寿命化をはかっています。同じ公園などもすべてやっているところで、そこを絡めるならばそれも入るのかなとも思います。

(副会長) ぜひ絡めたほうがいいと思います。まさに建設コストの話も含めて。

(会長) まずは、そういうことをやるので、今回関連する政策を考えようというところですので、今みたいな方向でぜひご検討いただければいいかなと思います。

(事務局) 大学との連携についてお話させていただきます。天草市では自然環境についていろんな研究や調査を進める中で、大学や子どもたちも含めてですね、環境学習を行い自然環境保全に繋げて行きたいというところもあり、関連としています。

(会長) 例えば、企業が学習環境の中に教育が入っているということと言いたかったと思いますが、明確な特色としてそういうことを取り組むという事だと思えます。意図があるのなら定期的に見えるようにしていただきたいなと思います。いいところだと思いますので。いろんな方の協力がだんだんできてきている。そういうことに関して、皆さんの見えるものも変わってきている。そういったものを行うということを今の課題からきちんと伝わってくると思います。皆さんがしっかりそういった発想が増えていくと、挑戦していくことが増えていくと思います。

(副会長) 今のお話、素晴らしいと思いますし、しかし、書けば書くほど、どこもその問題あるよねってなると思えます。その時に天草にしかない問題、もっと言うと、上天草市と天草市では何が違うのと言ったときに、明確が違うのは大きさが違うということです。同じような環境だけど、熊本市に近いとかってのは違うわけですよ。だから、問題の中から逆に今度は絞っていくときによりその地域の課題があって、例えば抱えている問題を10個断定したからこそ解決できる問題もあるんだというところで特化していくと、天草市らしい政策になっていくと思います。本当にピンチはチャンスだと思うので。そのようにやっていけば、かなり個性的にはなってくるのかなと思います。

(委員) ペット飼育者のマナー指導がありますが、ペットではなくてイノシシとかの害獣に関しては、市の管轄じゃないということでしょうか。ここには出てこなかったもので質問させていただきます。

(事務局) 有害鳥獣というところで、政策11の有害鳥獣対策のところ、イノシシ対策のことについて掲載しています。

(委員) イノシシ対策は、生活環境ではないのですね。

(副会長) そういうのはまさに天草らしいというか、里山的環境が残っているから農業の問題と生活環境の問題をきっぱり分けられないのが天草らしい課題かもしれません。だから、プラス面でいえば、そういう里山が残っているということですし、生活がおびやかされるところまで重大で深刻だということをいえるかもしれません。それはすごくいい気づきだし、それをどう解決していくのかのが行政の皆さんの腕の見せ所だと思います。

(会長) 政策36のところ、中身を見て見ると結局はこのような取り組みでいいのか気になるところです。豊かな自然と向き合って活用するというところで、結局は、海に浮かぶ博物館の考えに含まれているから、それでいいという言い方をしている

のかもしれませんが、よく見ないと意味が伝わらないと思います。結局これはありたい姿を実現する政策として、施策計画が1つで何をしたいのかが若干分かりにくいという気がします。地域の魅力向上や仕組みということで行くと、何をやるのかがないと弱いと思います。どうしても化石の話に見えてしまって。

(委員) 多様な地域資源を生かして魅力ある観光のまちがつけられているという中に、入れ込めなくはないですね。効率的なのは入れ込んでしまうことかもしれませんが、あえて分けて、ここに出張しているということが意図であれば、もう少し負荷があったほうがいいのかも感じました。御所浦だけでやるのはもったいないと思います。海でつなげて崎津と一緒にやるとかですね。少し強引かもしれませんが、つながり稼げるまちに入れ込まない理由を積極的に考えたらいいと思います。

(会長) ありたい姿は本当にいいことが書いてあります。政策の中身を見てみるとつながる稼げるまちにあった内容と違ってしまふところがあり、もったいないと思います。このありたい姿を実現するためには、他にもいくつかあるのではないですかということです。それが別にほかのところにあるんだしたら、ほかのところをこっちに移してもいいのかもしれません。

(事務局) 海に浮かぶ博物館あまくさの考えは、化石だけでなく、自然資源を生かした事業を推進していくのが目的の一つです。天草の御所浦だけでなく、天草全体または、上天草市や苓北町と一体となって進めていくため、あえてここに挙げているところです。

(副会長) そこが強く出てくるとばっちりです。御所浦だけじゃないと言うのが拠点としても1個なんか考えていますとか、今言われたように上天草や苓北つながるといふことがすごくいいと思います。全体がつながるってことがアプローチできる、それに船をもっと活用するとか、観光にも入れますとか向こうからこっちに来られるので完璧だと思います。

(会長) 施策計画を海に浮かぶ博物館あまくさの推進力だけでまかなうとして入れてしまふと、中身がやっぱり見えないので、いくつかに分けていただいていたほうがいいと思います。

(委員) ここに合うなと思ったのですが、孫を連れてイルカの自由研究に行ってきたんですけど、天草の子ではないので初めてイルカウォッチングいったのですが、その前にイルカの学習ができて、しかも、案内の方にイルカの生態を学ばせてもらって、船に乗ってご案内してもらっているっていうのは、ものすごくいい体験になって、これってものすごくいいと思いました。このことを考えると、天草の海のことやそのイルカの生態や学びと体験を通して魅力を知ることが多様な地域資源を生かし魅力ある観光の道がつけられていると思いました。

・理念「挑み続ける行政経営」

#### ○事務局説明

(委員) 午前中の話も踏まえてということであれば、経営なのか運営なのか、ちょっと言葉が荒れている感じがするので適切に使われる必要があるかもしれません。あらゆる社会変化に対応したではなく、すると思います。未来志向で行くってということかもしれないと思ったのですが、その経営という言葉に重きを置くの

か、先に挑み続ける、変革の時には少し違うような気もします。改善、改革ですね。キーワードを固定していただくと、だいぶ読みやすくなっていくと思いました。

(会長) 私からですが、そもそも繋がりというか、共助とか、全体でそういうことをやっていく、そういうような体質、そういう感覚で動く職員が組織に必要なようになってくるわけですが、そういったことはどこにあるのかということと、人も金みたいなそういった行政の新しい在り方を作り出しが弱いかもしれないと思いました。やろうと思ったら、色んな制度を変えていく必要があり、そのの辺りがもしかしたらありたい姿の 20 番になるのかもかもしれません。繋がる対策を常にどこを挑み続けることができるのか、行政をどう作るべきかということだと思います。行政経営の在り方として、そこは追及することがあるのではないかと思います。公民連携向上とかについては、繋がりをどんどん生み出していくような行政ということがあってもいいのかなって気もします。あと、横の繋がりみたいなのを考えれば、そういう場をどう作っていくか、そういった活動拠点をどう作るかということも、実はあったらいいと思います。

(事務局) 確かに、そのつながるという中で、市民と市民がつながってくださいと言いつつ、行政と市民はどうやって繋がっていくのかというところだと思います。効率的かつ効果的な行政運営の中で市民参画の推進としての一つとして提案をいただくというところがありますが、どうやって、聞きに行くのかという部分がないのかもしれない。対話をどうやっていくのかというところでもありますので、市長のマニフェストの中にも職員は出て行って、民間の方々と一緒に進めていこうっていうのもあります。

(委員) 市民との対話の中で情報を出したりもらったり、それから意見を吸い上げるということ。そういう時はリアルに会えればいいのですが、やはりどこかで DX 化を進めたり、スマホのアプリなどはないのでしょうか。例えば、福岡は LINE 自体が脆弱性などの問題はあったのですが、上手く活用している行政もあります。1 対 1 もありますし、1 対多数の方がやりやすいのかなとも思いました。現実的には、何かやる時は必ずリスクはありますけども。

(事務局) 投稿を SNS で使っているところは増えてきています。ただ、今おっしゃるように、フラットに、こう会話するって言う部分については今のところ考えていないところですよ。

(副会長) 地域経営の部分をして、主には行政経営の話が書かれているわけですけど、例えばですね、この次の 8 年間で 60 歳定年の行政マンの人が元気な 68 歳の方をどういう風にウェルビーイングを高めて生きるかとなると、すごい希望が溢れる話だと思います。今まで正直、再任用されている方の話を聞いていて、めっちゃめっちゃ能力があるのに、再任用ではもったいないと思います。その人たちが、地域経営に良いお金を出して行って、今までみたいに役人ではなく、自分の自己実現のためにふるさとで活躍するとかっていうのが、めっちゃくちゃ天草がたくさんある事例で、すごい希望に満ち溢れているのではないかと思います。そういう部分は挑み続ける行政経営の中に入るのでしょいか。

(事務局) 1 番の地域づくりの部分になります。

(副会長) 私はそこが組織力・職員力の部分に書いてあった方がいいのではないかなと思っています。例えば、セカンドキャリアの相方みたいな 40 代とか 50 代くらいの方が、自分で夢を持ってよ、約束の人生が次はもっともっとよくなっているように、やらないといけないと思っています。そこが難しいところではありますが。役所的に考えると終わってからのことは自分で考えるという事だと思いますが、天草市はチャンスが多いまちなので、若い間から自分の自己実現という部分をやった方がいいと思っております。自己投資のためにも時間なども。

(会長) 人に対してどう考えるかとか、すごく重要な要素となってくると思います。これから、公務員と副業はどんどん重要なテーマになってくわけです。それは、副業はアフター5 と思うかもしれませんが、複数の複業って思っています。お金をもらわなくても何かこのことを役割果たしますともちろん、こう、複数収入があってもいいかもしれませんが、今後はさらこの方向に向かっていくと思っています。そういう風にして、地域に役立つことをしていきたいということで、その時間は自分の活動としてやっちゃいけないみたいなことがやってもらった方が実はいいですし、言い方が難しいけど、多分収入は得ているわけですから、地域に役立つ時間が使ってもいいという制度を作ればいいわけですし。大学院へ行ってくださいよとか、いろんなことやって下さいと行って、やっていった方が地域にとっても役に立ちます。そういうことを始めた方がいいのかもしれませんが。それは、公務員というか、役所の仕事以外に出来るといった 2 つ目の名刺持ってくださいということかもしれません。働いている者のライフワークとしてやりたいことをやってくださいみたいな。そんなことやる役所もどんどん出てきています。自分としては、今は、窓口いるけども、実は、学校のことやっていきたいのでそこに関することは自分の時間の一部を使ってやりますということ認めるということです。市役所内での副業をやってみるのもいいかもしれません。そこから何か見ていくとそれぞれの能力を称え合う、高めるためにもきちんと生かせるような構図を作っていくことが必要で仕事の上でも必要なこととしてきちんと表現されていくと安定感にもつながってきます。挑戦したいとか、志としては、こういったことも、特に重要だということは掲げていく必要があると思います。

(事務局) 先日、新聞記事で、地域振興局の職員がアルバイトではなく、農業の手伝いしたりして、その経験が非常に役立つという話もありました。副業は、なかなか難しい部分もあり、どこまでが副業かってこともありますけども、確かに全国的な流れになると、人手不足のところ、公務員が土日に行って、手伝い給料をもらうというところもあるそうです。ただ、もらってばかりではなく、副業として成長しつつ、その中で地域との対話、地域に入り込むという一つの主体にもなってくるといいのかもしれませんが。検討させていただければと思います。

(会長) 検討いただきたいのは、この組織力と職員力と分けていってはどうですかということ。チームとか組織の中でしっかりとスクラムを組んで、動いていける力も別途必要なので。どちらにしても、分けた方が、実は明確な 2 つの方法が出て、それがやりやすいかもしれません。この部分は、行政経営改革大綱との話と繋がっているとあります。今後、行政経営改革大綱でもふくめ、どちらに書けばいいかご検討いただければと思います。どうしてもこの領域は、他の部門と

の違い部分が多くあります。徹底的にここまで書き挑戦していただいてもいいかもしれません。

それでは、これで終了したいと思います。

以上